

## 中小企業新技術・新製品開発促進事業（SBIR）

# 助成金交付対象 12 事業を決定しました

横浜市では、中小企業の成長・発展に向けたイノベーションの促進支援として、「中小企業新技術・新製品開発促進助成」を実施しています。積極的に新技術・新製品開発に取り組めるよう事前調査、研究、開発に係る経費を助成し、研究開発に意欲的に取り組む企業を後押しします。

このたび 41 件の申請に対し、有識者から成る審査会を経て 12 件の助成金交付対象事業が決定しました。各企業が新技術・新製品の研究開発を進め事業化を目指します。

### 助成金交付対象事業 \*企業名 50 音順

#### 1 調剤薬局向け POS レジプラットフォーム開発<開発 1 か年計画>

株式会社ウェブフロンティア

調剤薬局向けに安価な POS レジ/クラウドシステムのプラットフォームを開発する。調剤薬局の生産性/売上向上、薬剤師の労働時間軽減のための支援を行う。購買層の分析を行うことでマーケティングにも活用が見込まれる。

#### 2 超薄型・軽量サスペンションシートユニットの開発<開発 2 か年 1 年目>

N P W横浜株式会社

従来のシート用サスペンションは機構部品や骨格が複雑で、小型トラックにはサイズの、コスト的に採用が難しい。そのため、バネやリンク等の機構部品や骨格を合理化し新たな構造とし超薄型・軽量・安価なシート用サスペンションユニットを新規に開発する。

#### 3 壁面調査機能を備えたプロ仕様の水中ドローン開発<開発 1 か年計画>

株式会社キュー・アイ

高品質な映像取得を可能にする水中ロボットを低価格で提供したい。プロユースを想定した堅牢性と卓越した姿勢安定及び機動性、そして独自の水中壁面調査技術を備えた製品競争力の高い水中ドローンを開発する。

#### 4 振動異常監視ユニット<開発 1 か年計画>

株式会社小林電機

モーター及びベアリングを使用した機械装置に対して、異常変位及び異常温度を感知でき、故障原因を速やかに確認し、機械装置の故障及び破壊を防ぐセンサー装置を開発する。

#### 5 24GHz 新方式レーダ「miRadar™8」の高機能化と新製品開発<開発 2 か年 1 年目>

サクラテック株式会社

開発済みの MIMO レーダを応用し、3次元計測と高分解能特性を実現し、生体信号モニタリング（VSM）システムと車載用イメージング・レーダの実用化に向けた開発を行う。車載向け障害物検知や、見守りシステムへの活用が見込まれる。

6 溶剤使用職場対応、光触媒と紫外線 LED による防爆型処理装置の開発<開発 1 か年計画>

盛和环境エンジニアリング株式会社

印刷や半導体など溶剤使用職場では、労働安全衛生管理が重要となる。溶剤ガスは引火性が強く、従来は吸着型の活性炭しか使用できなかった。今回、光触媒を活用し業界初の防爆型の溶剤ガスの分解処理装置の開発を行う。

7 マルチファンクション組み合わせユニット壁の開発<開発 2 か年 2 年目>

株式会社高千穂

消臭性、デザイン性に加え、次世代省エネ性などを有する、組み合わせ自由なユニット壁面を開発する。それにより、施工が容易で拡張性のある、単なる間仕切りではない、機能的で能動的な壁面を創出する。

8 光造形(DLP)による射出成形機用プラスチック製簡易型を使いプラスチック製品製作<研究>

株式会社テクノラボ

現在、簡易金型の材質はアルミ材を使用して製作している。更なる安価と工期短縮の実現へ向け、光造形機でプラスチック製簡易型を作り、射出成形でプラスチック製品を作る研究を行う。

9 産業用作業向け装着型下肢支持装置の開発<開発 2 か年 2 年目>

株式会社ニッター

「立ち仕事をする方々の負担を軽減したい」という思いから、産業向けに装着型下肢支持装置を開発する。工場作業者の身体的負担を軽減し、産業界の労働環境改善に寄与することを目的とする。

10 破損DNAによるDNA鑑定<開発 2 か年 1 年目>

日本ソフトウェアマネジメント株式会社

DNA 鑑定で、現在は鑑定不可能な破損DNAを鑑定可能にする技術を確立する。現行の分子量比較の鑑定法をDNA塩基配列比較で行うことで、破損・劣化したDNAでも鑑定が可能になる。

11 IoT を利用した船舶エレベーター新メンテナンスシステムの開発<開発 1 か年計画>

株式会社日本リフトエンジニアリング

外航客船・大型商船に設置されたエレベーターの稼働状況やデータを監視装置に集積し、入港した際に IP 網経由で情報を受取り、エレベーターの遠隔診断をするシステム・装置を開発し、グローバル事業化を実現する。

12 超高輝度 LED 照明の開発<開発 2 か年 1 年目>

レボックス株式会社

カメラの進化に伴い自動検査の速度の向上が求められているが、そのためには明るい照明が必要となる。光学系の最適化や放熱機構の効率をあげることで次世代の検査機に追従できる照明開発を目指す。

お問合せ先

経済局ものづくり支援課長 高柳 友紀 Tel 045-671-3839